

《日商簿記2級》 —工業簿記—

8. 労務費計算②

～消費賃金の計算について～



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



消費賃金の計算方法

～直接工の消費賃金の計算方法～ <作業時間と消費賃率について>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



消費賃金の計算方法

・直接工の消費賃金は、作業1時間あたりの賃金である()に()をかけて計算する。

$$\text{直接工の消費賃金} = \text{消費賃率} \times \text{作業時間}$$

・その際、工員の作業時間に応じて、特定の製品と紐づけができる()と特定の製品と紐づけができない()に分けていく。

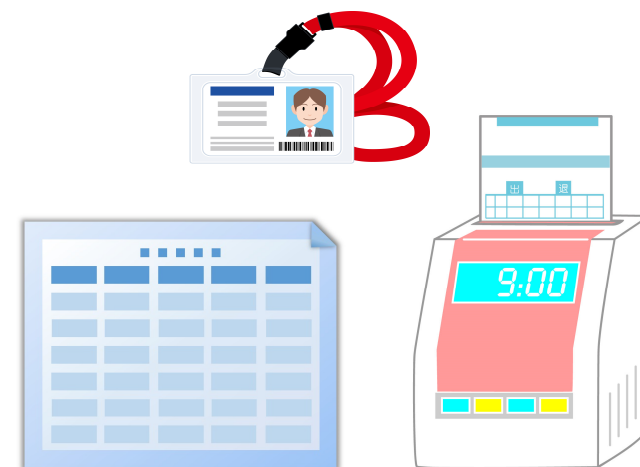
《直接工の作業時間について》

勤務時間 (拘束時間)			
就業時間			休憩時間
実働時間		手待時間	
直接作業時間		間接作業時間	
加工時間	段取時間		
()	()	()	()

分類	内容
直接工の賃金	製品製造(加工作业)に直接携わる工員への給与(直接作業分) (切削・組立など)
直接工の賃金	製品製造(加工作业)に直接携わる工員への給与(間接作業分) (製品製造に直接携わらない作業)
間接工の賃金	製品製造はせず、補助的な作業に携わる工員への給与 (修繕・運搬・清掃など)
給料	事務員や管理監督者などへの給与 ※製品製造に関わっていないので工員とは言わない
雑給	パートやアルバイトなどへの給与
従業員賞与手当	賞与(ボーナス)や(作業には関係ない)通勤手当、住宅手当など
退職給付費用	退職金の支払いに備えて設定される引当金の繰入額
法定福利費	社会保険料の会社負担分 ※日商簿記3級「第26回:立替金と預り金」で詳しく解説しています!!

○用語○

- ()…実際に働いている時間
- ()…(機械の故障などで)作業ができずに待機している時間
- ()…機械とか工具の準備、後片付けにかかる時間



消費賃金の計算方法

勤務時間(拘束時間)			休憩時間
就業時間		手待時間	
実働時間			
直接作業時間		間接作業時間	
加工時間	段取時間		
直接労務費		間接労務費	

$$\text{直接工の消費賃金} = \text{消費賃率} \times \text{作業時間}$$

《直接工の消費賃率について》

- 消費賃率(作業1時間あたりの賃金)には、下記の2つがある。
 - ()…実際の賃金をもとに計算したもの【直接工の要支払額÷就業時間】
 - ()…年度のはじめに実際賃率を予想したもの
- 予定賃率を用いるメリットには、「計算が迅速にできる」などがあげられる。
- また、予定賃率を用いた場合、月末に把握される実際消費額との差額で()を把握する必要がある。

●復習●

「実際消費額>予定消費額」の場合 → 予定していた消費額(原価)より実際は多くの消費額(原価)がかかった場合

不利差異(借方差異) • 有利差異(貸方差異)

「実際消費額<予定消費額」の場合 → 予定していた消費額(原価)より実際は少ない消費額(原価)でよかった場合

不利差異(借方差異) • 有利差異(貸方差異)

消費賃金の計算方法

～間接工などの消費賃金の計算方法～ <〇〇〇〇のすべてを間接労務費へ>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



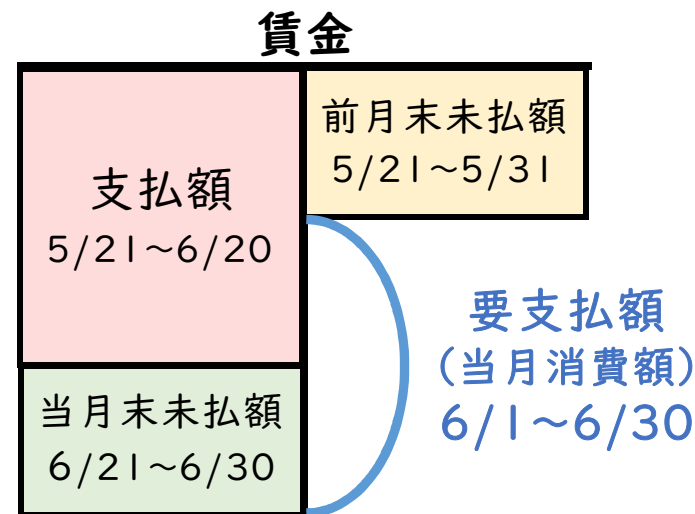
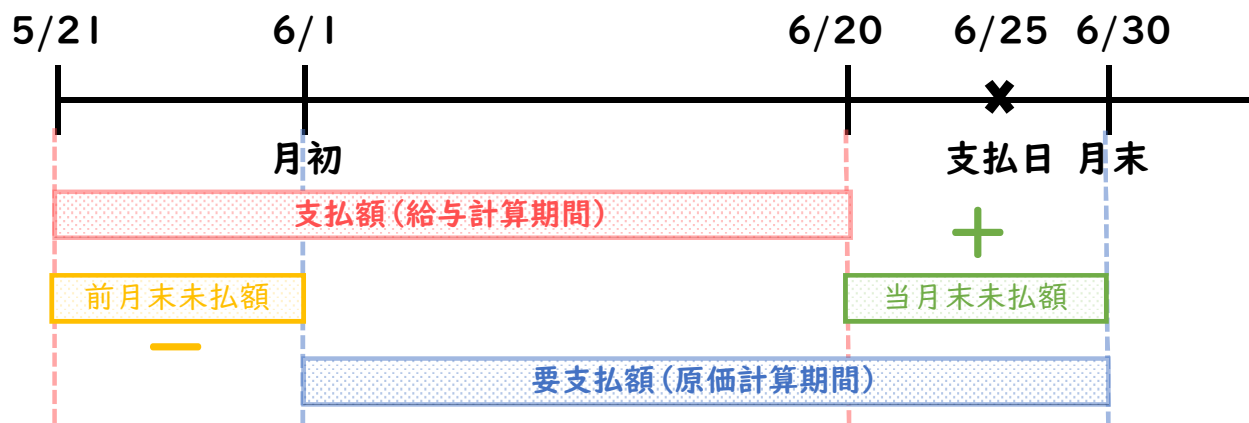
消費賃金の計算方法

○参考○
本来は、間接工賃金・事務職員の給料も「消費賃率×作業時間」で求めるのが理想なのですが、簡便的に要支払額を消費賃金としていきます。原価計算基準においても原則は「要支払額をもって計算することができる」とされています。

・間接工の賃金や事務職員などの給料は、原価計算期間における()のすべてを間接労務費として()勘定へ振替える。

例題) 下記の資料をもとに消費に関する仕訳を行うこと

	前月末未払額	当月支払額	当月末未払額	要支払額
間接工の賃金	100	500	200	
事務職員の給料	50	250	100	



消費貸金の計算方法

—問題解説— ～予定貸率を用いた場合～

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



消費賃金の計算方法

$$\text{直接工の消費賃金} = \text{消費賃率} \times \text{作業時間}$$

問題

次の取引の仕訳を行いなさい。なお、消費賃率は計算を迅速に行うため、予定賃率@10円で計算している。

- 6月 1日 賃金の前月末未払額は1,500円だった。
直接工:1,100円 間接工:400円
- 6月25日 当月の賃金8,500円から預り金850円を控除して、残額は現金で支払った。

	当月支払額	預り金
直接工:	6,500円	650円
間接工:	2,000円	200円
- 6月30日 当月の直接工の実際作業時間は次のとおりであった。
消費に関する仕訳を行うこと。
就業時間:600時間
直接作業時間:500時間 間接作業時間:80時間
- 6月30日 当月の賃金未払額は1,700円である。
直接工:1,200円 間接工:500円
- 6月30日 実際消費額と予定消費額より、賃率差異を計上する。
- 6月30日 当月の間接工の消費に関する仕訳を行う。

勤務時間(拘束時間)		
就業時間		休憩時間
実働時間		手待時間
直接作業時間	間接作業時間	
加工時間	段取時間	
直接労務費		間接労務費

【予定消費賃金】
直接労務費
間接労務費

【実際消費額】

直接工賃金
間接工賃金

直接工未払賃金
間接工未払賃金

消費賃金の計算方法

問題

次の取引の仕訳を行いなさい。なお、消費賃率は計算を迅速に行うため、予定賃率@10円で計算している。

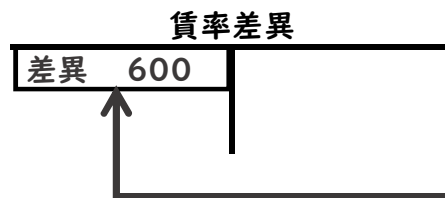
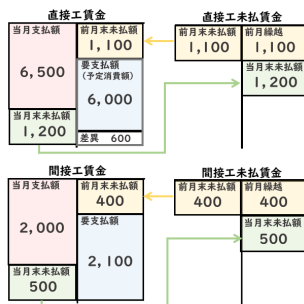
- 6月 1日 賃金の前月末未払額は1,500円だった。
直接工:1,100円 間接工:400円
- 6月25日 当月の賃金8,500円から預り金850円を控除して、
残額は現金で支払った。

	当月支払額	預り金
直接工:	6,500円	650円
間接工:	2,000円	200円
- 6月30日 当月の直接工の実際作業時間は次のとおりであった。
消費に関する仕訳を行うこと。
就業時間:600時間
直接作業時間:500時間 間接作業時間:80時間
- 6月30日 当月の賃金未払額は1,700円である。
直接工:1,200円 間接工:500円
- 6月30日 実際消費額と予定消費額より、賃率差異を計上する。
- 6月30日 当月の間接工の消費に関する仕訳を行う。

【予定消費賃金】
直接労務費
@10×500h =5,000円
間接労務費
@10×(80h+20h)=1,000円

【実際消費額】
6,500+1,200-1,100
=6,600円

- 6/1
- 6/25
- 6/30
- 6/30
- 6/30
- 6/30



直接工賃金

当月支払額	前月末未払額
6,500	1,100
	予定消費額
1,200	6,000
	当月末未払額
	差異 600

間接工賃金

当月支払額	前月末未払額
2,000	400
	要支払額
500	2,100
	当月末未払額

《まとめ》

勤務時間(拘束時間)			休憩時間
就業時間		手待時間	
直接作業時間			間接作業時間
加工時間	段取時間		
直接労務費		間接労務費	

- 直接工の消費賃金は、() で計算していく
- 直接工の作業時間は、直接作業時間分が() となり、
間接作業時間や手待時間分は() となる
- () とは、作業ができずに待機している時間である
- 予定賃率を用いる場合は、実際消費額との差額で() を把握する
- 間接工・事務職員の消費賃金(給料)は、要支払額のすべてが
() となる



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします！

第8回の内容お疲れさまでした♪

